

会議議事録

会議名	平成 28 年度第 2 回医療事務分野教育課程編成委員会
開催日時	平成 29 年 2 月 16 日 (木) 15:00~17:00 (2.0h)
場所	本校 1 階会議室
出席者 (敬称略)	①企業等委員：山室 靖 (東京衛生病院医事課課長) (計 1 名) ②本校委員：橋本正樹 (校長)、藤野 裕 (参与)、宮下明久 (事務局長)、石川幹夫 (医療秘書科学科長)、村山由美 (医療秘書科副学科長)、黒田 潔 (医療マネジメント科学科長)、菊池聖一 (診療情報管理専攻科学科長)、三宅かおり (教務委員長)、河村和恵 (医療事務教科系研究会リーダー) (計 9 名) ③事務局：手塚理恵子・高橋 稔 (計 2 名)、(参加者合計 12 名)
欠席者	須貝和則 (国立国際医療研究センター 診療情報管理室室長)、横堀由喜子 (日本病院会学術部長)、渡辺元三 (聖母病院医事課課長)
配付資料	①事前送付：□資料 1：平成 28 年度第 1 回医療事務分野教育課程編成委員会議事録、□資料 2：平成 29 年度医療秘書科、医療マネジメント科、診療情報管理専攻科、医師事務技術専攻科の各学年カリキュラム表 ②本配付：□資料 3：前回委員会以降の主な経過報告 (別添 A：平成 28 年度学校関係者評価委員会報告書、別添 B：平成 28 年度就職内定先、別添 C：平成 28 年度後期授業アンケート集計結果の概要)、□資料 4：医療マネジメント科の後期講演会報告、□資料 5：平成 28 年度学科運営等に関する報告、□資料 6：平成 28 年度教員研修計画、□資料 7：平成 28 年度授業公開報告、□資料 8：平成 29 年度カリキュラムと教育活動のポイント、□資料 9：実践的かつ専門的な職業教育の教育課程編成に関する細則
委員長	橋本校長
議題等	1. 本日欠席者のご連絡 (説明者：事務局高橋) 事務局より、本日は 3 名の企業等委員 (山室委員、須貝委員、渡辺委員) の出席で開催の予定だったが、須貝委員と渡辺委員から欠席の連絡があり、山室委員の出席での開催となったことについて報告が行われた。 2. 校長挨拶 橋本校長より、本日出席の企業等委員への謝辞の後、以下の挨拶が行われた。 平成 29 年度から 2 年制の教育の上に、1 年制の新たな専攻科、医師事務技術専攻科がスタートする。医療事務高度化の中でこの学科をいかに充実させていくかが本校の教育の一つのテーマになっていく。本日も教育課程編成委員会の先生から、医療事務分野の教育活動について貴重なご意見を伺いたい。 3. 前回委員会議事録の確認 (説明者：事務局高橋) 事務局より本委員会の議事録の作成方法について説明が行われた後、橋本委員長より、前回議事録 (資料 1) について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく確認、了承された。

4. 平成 28 年度の活動報告等について

(1) 平成 28 年度第 1 回委員会以降の主な経過（説明者：宮下事務局長、事務局高橋）

各担当より資料 3（別添 A～C）に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(2) 医療マネジメント科の後期講演会報告（説明者：黒田学科長）

黒田学科長より資料 4 に基づき、横堀委員に講師をお願いした講演会を開催したことについて報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(3) 平成 28 年度の学科運営等に関する報告（説明者：石川学科長、黒田学科長、菊池専攻科学科長、橋本校長）

各学科長、橋本校長より資料 5 に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(4) 平成 28 年度の教員研修に関する報告（説明者：三宅教務委員長）

三宅教務委員長より資料 6、資料 7 に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 平成 29 年度のカリキュラムと教育活動について（説明者：石川学科長、黒田学科長、菊池専攻科学科長）

各学科長より資料 2、資料 8 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 平成 29～30 年度の委員委嘱について（説明者：事務局高橋）

事務局より資料 9 に基づき本委員会の委員任期について説明が行われた後、橋本校長より、山室委員には引き続き就任をお願いしたい旨の依頼があり、確認、了承いただいた。なお、手続きは他の委員の方々と合わせて 4 月～5 月に行う予定である旨事務局より説明が行われた。

7. 次回日程、その他（説明者：事務局高橋）

本委員会は年 2 回の開催であり、次回は 7 月を予定している。5 月に各委員の予定をお伺いして日程調整を行う。テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

- ①平成 29 年度学科運営計画の説明
- ②平成 29 年度カリキュラムと教育の実施状況報告
- ③平成 30 年度カリキュラムと教育の進め方について

最後に、橋本校長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼があり、閉会した。

以上

別紙

平成 28 年度第 2 回医療事務分野教育課程編成委員会の主な討議内容

4. 平成 28 年度の活動報告等について

(1) 平成 28 年度第 1 回委員会以降の主な経過（説明者：宮下事務局長、事務局高橋）

○事務局高橋、宮下事務局長より、担当する項目について、資料 3（別添 A～C）に基づき平成 28 年度第 1 回委員会以降の経過について以下の報告が行われた。

1. 職業実践専門課程関連

(1) 介護福祉科の職業実践専門課程認定申請

- ・ 8/26 豊島区に認定申請書類提出
- ・ 11/30 後期実施の第三段階実習の契約書と実習評価資料を豊島区に追加提出
- ・ 12/28 文部科学省に正誤表他提出
- ・ 3月認定、官報公示の見込み

2. 学校関係者評価関連

- ・ 11/20 平成 28 年度第 2 回学校関係者評価委員会
- ・ 12/26 平成 28 年度学校関係者評価委員会報告書の校長への提出（別添 A）
- ・ 3/18 平成 28 年度第 3 回学校関係者評価委員会開催予定

3. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

- ・ 平成 28 年度の重点目標、年間の退学率 3.5%以下を設定して取り組んでいる

(2) 就職内定の状況

- ・ 各学科の学科運営計画にそれぞれ内定目標を明記して取り組んでいる
- ・ 主な就職内定先（別添 B）
- ・ 1 月末時点でのインターンシップ専攻の状況

(3) 専攻科への進学状況

4. アンケート関連

(1) 平成28年度の実施状況

	前期授業アンケート	後期授業アンケート	学校生活に関する調査
実施期間	・ 6/27(月)～7/1(金)	・ 12/12(月)～22(木)	・ 12/12(月)～22(木)
結果公表	・ 個別報告：学科長より常勤教員及び兼任講師に手渡し	・ 個別報告：常勤教員に手渡し、兼任講師は郵送	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学内：教職員は学内ネットに掲載、学生、兼任講師は図書室に配架 ・ 学外：非公表
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期授業アンケートの全体集計（別添 C） ・ 学内：教職員は学内ネットに掲載、学生、兼任講師は図書室に配架 ・ 学外：平成 28 年度活動の自己評価報告と合せて本校ホームページに掲載 		

5. 学生募集関連

(1) 入学試験及び出願状況（1 月末時点）

	看護科を除く学科	看護科
既実施	・ 10/15(土)、11/12(土)、11/26(土)、	・ 指定校・公募推薦：10/30(日)

	12/17(土)、1/21(土) ・特待生、推薦、特別奨学生、AO、外国人、 一般	・社会人・キャリア：11/26(土) ・一般Ⅰ期：11/26(土)、12/10(土) ・一般Ⅱ期：2/4(土)、2/11(土)
今後の日程	・2/18(土)、3/11(土)、3/25(土)	

○以上の報告について橋本校長と宮下事務局長より、以下の補足が行われた。

- ・今年度、全体の退学率は現時点では昨年よりも下がっているが、医療事務系は若干上がっている。
- ・インターンシップについては、2年次の10月以降の教育に関連して現場の教員の声があり、今年度は二つお願いをしている。まず一つは時期。10月からインターンシップ専攻が開始できるが、なるべく開始時期が遅くなるようにという、お願いをしている。もう一つは、いきなりフルタイムの業務は負担が重く、それが辞退につながってしまう可能性も高いので、週休2日以上になるようお願いしている。
- ・今年度は、インターンシップ専攻の比率が少し減り、途中辞退も前年に比べると減っている。

○報告に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

(2) 医療マネジメント科の後期講演会報告（説明者：黒田学科長）

○黒田医療マネジメント科学科長より、資料4に基づき、以下の報告が行われた。

- ・毎年11月に医療マネジメント科1年生を対象に「診療情報管理士の仕事紹介」をテーマに日本病院会の横堀由喜子委員による特別講演を行っている。
- ・診療情報管理専攻科に進むかどうかの2年次のコース選択の前に診療情報管理の仕事、診療情報管理士について再度確認をしてもらう目的もある。
- ・出席率は90%を超え、講演終了後のアンケートでは参考になったがほぼ全体の声になっており、開催の目的は達成したと考えている。
- ・今年は特に、例年10月に開催の診療情報管理学会、学術大会が国際大会であったことから、当然そのことも講演に反映されたので、国際的な動きや将来性について学生の理解が深まった。
- ・また、常勤教員から学生にプロローグの意味でレクチャーをしてから横堀委員の特別講演を聞いてもらう形にしたことで、更に、学生の理解が深まったと思う。

○橋本校長より以下の補足が行われた。

- ・この講演は横堀委員にご協力いただいて例年行っているが、今年はこのように工夫を加えた。目的としては診療情報管理専攻科に進む学生の募集活動を兼ねることになるが、仕事の理解という点で非常に有効な催しであると思う。

○報告に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

(3) 平成28年度の学科運営等に関する報告

○石川医療秘書科学科長、黒田医療マネジメント科学科長、菊池診療情報管理専攻科長より、それぞれ資料5に基づき以下の報告が行われた。

(ア) 医療秘書科

- ・サポーターシステムとクォーター制のその後の検討については、病院訪問等で現場のお話を聞く中では、コミュニケーション能力、本校でいうTPCに当たる部分の能力が一番欲しいということ言われることが多い。
- ・サポーターシステムの内容は、2年生が1年生の授業に入って指導・助言をするという形で、TPC

の部分で専門科目の中でも育てていこうという内容で 29 年度カリキュラムに実際に配置した。カリキュラム表の「アクティブラーニングクラスサポーター」を「医療 PC インストラクション」という科目名に変更して最終形になっている。

- ・クォーター制は、教員配置の点や物理的な点で難しさがああり、検討は続けているもののなかなか進んでいない。
- ・検定シーズンが 6 月～7 月、11 月～12 月にあり、そこに補講を入れていくと学生の負担が大きいことから、検定に絡まない授業を 1 年前期の後半に固める、検定に絡むものを前期の前半、後期の前半に固めることを学科の中で検討しているが、兼任の先生方をお願いするのが難しい。その中で今年度は 1 年の後期から常勤教員による進度別という授業を取り入れて、検定取得に対応する流れをつくった。
- ・医療秘書コース、医師事務作業補助者を目的とするコースは 46 名履修でスタートして、13 名が資格を取得した。医師事務記述専攻科に進む学生の実績は残せなかった。
- ・前回横堀委員から、医師事務作業補助者は働きながら身につけていく要素が強いというお話もあったが、学内でスペシャリストとして育つことの魅力を感じられるようにアナウンスの仕方等も検討していく必要があると思っている。この 13 名の中で、医師事務作業補助者の求人に手を挙げた 2 名が現在、インターンシップ生として就業している。

(ウ) 医療マネジメント科

- ・教育活動では年度ごとに学科運営計画を策定しており、それに沿って運営をしているが、ほぼ計画どおりに実施できている。
- ・退学については、前年度より少し上回っている。学生そのもの、あるいは学生の背景の状況も多様化しているので、担任の対応だけではなくて、さらなる現実に合わせて対策が必要になってくると思っている。
- ・専攻科（3 年次）へ進学する際の選考を厳然と実施したという意味は、前年度は専攻科の学生が 54 名だったが、必ずしもそういう分野を目指していない、あるいはやる気の問題等で現実的に相当無理があると思われる学生が進学したということがあり、今年度は、菊池学科長が面談等を実施する、また出願要件も明確にして、それに基づいて専攻科への進学を許可するという形にした
- ・これにより、診療情報管理専攻科への進学予定者は先ほど事務局長から報告の 37 名。そして、新設の医師事務技術専攻科への進学予定者は 3 名という形になった。

(エ) 診療情報管理専攻科

- ・昨年度、診療情報管理士の認定試験が、平均に近いとはいえ、結果としてはふるわなかったということがあり、本年度は専門領域、管理部門の基本的な知識を問うような対策をしっかりと行った。
- ・学生の意見等を聴取した範囲では、専門領域はよくできた、分類はもともとできていたという話が多かったが、残念ながら去年よかった医学知識が難しくてという学生が結構いることから、次年度、対策をまた考え直す必要があると思っている。
- ・就職は、専攻科生は 2 年課程の学生よりは有利な状態で就職活動ができているが、中には目的意識の薄い学生もいて、就職が困難ということがあるので、個別に対応して、何とか前年度並みの就職率にはなっているが、苦戦しているという状況。
- ・学会発表は、今年度は診療情報管理士の世界大会ということで、発表者をふやして実施したが、残念ながら表彰までにはつながらなかった。
- ・学生募集に関しては、募集規定を明確にして、面談等を実施しながら行った。何とかぎりぎり定員に

近い数が確保できたと思っている。

- ・前回、卒業生で診療情報管理士の資格が取れなかった学生への対応をどうするかということで、授業科目の開放を検討すると回答したが、今のところは科目履修しか手の打ちようがないと考えている。

(オ) インターンシップ途中辞退について

○石川医療秘書科学科長、黒田医療マネジメント科学科長より以下の報告が行われた。

- ・医療秘書科では12月末時点では発生しなかったことから、良い方向に進んでいると思っていたが、1月に入ってミスマッチによる辞退が発生した。また、在学中からコミュニケーションが心配な学生が現場に出ても同じような状況で辞退になっているケースがある。
- ・例年と同じような形で発生しているので、今後はこの辺の情報提供、またコミュニケーション力を中心とした教育内容の充実に取り組んでいきたいと思っている。
- ・医療マネジメント科は2月に入って残念ながら内定取消が1名発生した。理由は学生の圧倒的なコミュニケーション力不足ということだった。
- ・今年は昨年と比率して随分低下させることができたと思っている。理由は先ほどのキャリアサポートセンターの取り組みの他に、学生の登校日に報告書にSOSを書いてきた等の学生に対して教員がフォローしていることも効果があったと思っている。
- ・とは言え、その学生の就活支援、あるいは就職を考えると、インターンシップが内定の条件になっている暗黙の了解のようなところに難しさを感じている。

(カ) ポリシーの再確認について

○学科の報告に合わせて、橋本校長よりポリシーの再確認について以下の報告が行われた。

- ・今年度はファシリテーターとしてリクルートの協力を得て学校コンセプトの再確認と本校の強みの確認をした。
- ・大学等では繰り返しディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーをしっかりと確認しなさいということが言われているが、専門学校の場合は特にアドミッション・ポリシー、どういった人材を職業人として送り出すかということが大切であり、本校は各学科の学科運営計画に毎年きちんと記載をしている。
- ・どういう学生に入学してほしいかという、アドミッション・ポリシーの確認も課題であり、誰でもいいのではなく、こういう学生にぜひ入学してほしいということを繰り返し、オープンキャンパス等を含めて案内して、そういった学生がふえていくことが結果的に質を高めるということにつながる。こういった点も確認しながら進めていくことに、今年度は一つ進展があったと思っている。

○報告に対して企業等委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

質問・意見	回答
□卒業時に診療情報管理士の資格を取得していない人は1年後までモチベーションが続かないので、集まって勉強する場があるとよい。	□何回か単発的にやって受かるという話ではなくなってきた。10～20回学校で準備できればよいが、勤めていると夜か土日しかないので予算の問題になってくる。
□外部とのコミュニケーションにおいて診療情報管理士の資格を持っていると対応が違う。勉強する仲間がいれば情報交換できるので、私も勉強しているということを伝えられる形になってきたらよいと思う。	□管理士を持っている人は、医師と共通の言語を持っていることで高く評価される。今後とも教育をお願いしたい。

(4)平成 28 年度の教員研修に関する報告

○三宅教務委員長より資料 6、資料 7 に基づき以下の報告が行われた。

(ア) 外部研修

- ・外部講師を招聘しての年 2 回の教職員研修のほか、現在意欲のある教員の方に、外部研修参加費用を補助する新たなシステムの構築を検討している。既に予算は申請したので、可能になった場合には、細かい運用規定などを考えていく。
- ・教務委員会が主催した校内研修としては、初回は 8 月の「アクティブラーニング型授業を考える～アクティブラーニング型授業の手法と力を伸ばす授業設計」を実施した。アンケートによると評判もよく、ぜひ自分の授業に取り入れたいという感想が多く見受けられた。3 月 2 日には「コーチングの基本的スキルを学ぶ」を企画しコミュニケーション力向上を図る。
- ・外部研修は、学校全体の受講者数が 2 月末現在で前年比 1.8 倍と増加している。看護科の教員数を差し引いても、外部に出ている吸収したいという意識の高まりが見受けられる。
- ・外部研修受講後の校内での情報共有の仕組みについては検討する必要があると思っている。

(イ) 授業公開

- ・平成 25 年度以降、教員研修として「授業公開の工夫とインストラクションスキルの向上」が重点目標の 3 つの柱のうちの 1 つに掲げられている。
- ・今年度は校長を実施責任者として、教務委員会が直接管掌して運営した。
- ・期間は全学科共通で 10 月 11 日から 24 日までの 2 週間とし、参観の対象を常勤教員だけではなく事務職員、兼任講師にも拡大した。ただし兼任講師の参観は授業公開をした方に限ることとした。
- ・原則として期間中の全ての授業を公開の対象とし、要望により「授業公開対象授業一覧」を作成し全教職員に配信、教員室内に掲示した。
- ・全教員に対して複数回の参観、学科長に対して全学科員の授業の参観を義務づけた。その結果前年と比較して大幅な増加につながった。なお、看護科は実習などで校内にいない方が多いので、いずれも努力義務とした。
- ・特徴的なこととして、任意参観の事務職員に予想より多く半数近い 7 名の参観があった。
- ・参観レポートと公開レポートはより簡易な書式で改善点を提案できるように工夫したが、自分の授業でも反映していきたいという自らの授業を顧みる内容の記述が多く見られた。
- ・教員間でも授業公開の理解の浸透や、積極的に捉える機運の高まりが考えられ、やってみたら意外とよかったという感想がアンケートでも多く寄せられた。
- ・また、モチベーションを高めることにつながった、授業を見直したとの記述が多く見られ、インストラクションスキルの向上に寄与できたものと受けとめている。
- ・科目の偏りを防ぐために、前期と後期を隔年で実施したいと考えており、次年度は、前期実施を目指して今月から準備に入る予定でいる。また、学校全体で取り組むことを目標に兼任講師への拡大を図るため、次年度は広報に努めるつもりでいる。

○報告に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

5. 平成 29 年度のカリキュラムと教育活動について

○石川医療秘書科学科長、黒田医療マネジメント科学科長、菊池診療情報管理専攻科長より、それぞれ資料 2 と資料 8 に基づき以下の説明が行われた。

(ア) 医療秘書科

- ・平成29年度カリキュラムでは、2025年問題も含めて福祉分野との連携が緊密になる流れを反映させ、福祉事務コースに設定していた「介護保険の基礎」を共通科目とした。
- ・秘書教育の充実を目的に2年後期に「医療秘書実務Ⅱ」を配置した。原点に戻って秘書教育を充実させるとともに、医師事務技術専攻科を見据えてのこともある。
- ・両科目は授業以外の部分でも指導、助言ができるように常勤教員が担当する体制を整えた。
- ・T P Cからは、周りの人と協働して現場で活躍する要素として「医療P Cインストラクション」という授業を配置した。

(イ) 医療マネジメント科

- ・「社会人基礎」は時事問題、一般常識、作文、プレゼン力、コミュニケーション力をまとめた、主に就職試験対策になる科目として新設した。
- ・「マナー・ホスピタリティ」はいわゆる秘書教育として以前からあるが、より現実の仕事場で役立てられるように中身をリニューアルした。
- ・パソコン教育は、以前の「パソコン演習」を診療情報管理にも対応する実践的な力を身につけ、さらに医療情報技師も目指せるような内容にリニューアルした。

(ウ) 診療情報管理専攻科

- ・専攻科をスタート以来の狙いが、データベースに強い卒業生の育成であり、病院経営に必要な医療情報の資料作成や医療の質を分析するための資料作成には医療データベースに対応できないとだめだろうということで、「データベース演習」を充実させた。
- ・また、作成だけでなく出てきたデータを解析できるという人材育成も目指しており、必要な授業を配置している。
- ・専攻科ではないが、専攻科に必要ということで、医療マネジメント科2年次にがん登録と病理組織学に関する授業を配置してもらった。
- ・また、D P C制度での請求に対応できるように、「D P C演習」を配置しているが、この科目は今後さらに充実させていきたいと考えている。
- ・「診療情報管理演習」は診療情報管理士の認定試験対策科目として配置している。
- ・教育のポイントは、医療の質や経営の改善に必要な統計資料の作成・分析・提案ができる人材、基本業務である診療録の監査だけでなく、がん登録、D P C制度での請求業務に対応できる人材育成にある。

(エ) 医師事務技術専攻科

- ・新カリキュラムのポイントとして卒業後、業務にできるだけ早く対応できるように「医師事務作業補助実習」と「医師事務作業補助実務」を配置した。
- ・「代行入力演習」と「カルテ読解演習」では、実際に必要なカルテ情報、ドクターが入力するカルテ情報に対応できるレベルに育てたいと考えている。ただ入力するだけでなく入力の間違いや診療情報の記録のミスにも気づくようなレベルの卒業生を育成したいので特に力を入れている。
- ・実際に診察をしながら、代行入力を実施しているドクターに授業を持っていただくので、演習では具体的な指導をしていただけたらと思っている。
- ・チーム医療の中できちんとコミュニケーションを図って、チームの一員として活躍できる人材、電子カルテ入力、医師の高度な事務作業の代行だけでなく、医師の全ての事務作業にかかわれる人材、行動力のある人材を育成する。

○説明に対して企業等委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

質問・意見	回 答
<p>□TPCについては、考える力もあれば一番よいが、積極性とコミュニケーション力が重要だと思う。今の子は積極性が足りない。パソコン関連では、多様かつ急な資料要求に対応できるように、エクセルだけでなくアクセスなどでデータベースが操作できると非常に助かる。</p> <p>□アクセスはデータベースに直接紐づけできるので、必要な条件でデータを抽出することができる。この機能は医事ソフトでは全然足りない。医師事務については、一度代行入力を使うと医師は離せなくなってしまうので、需要は多いと思う。点数ももらえて、作業効率も上がるので、できる人材がいると病院としては助かる。診断書の作成もできるとよい。今はソフトがいろいろ出ているので、我々も導入したいと思っている。</p> <p>□このぐらいまでできるという基準があるとよい。需要はあるが、実績がないので使えるかどうか不安がある。</p> <p>□医療事務というより医療用語を知っているか、カルテを読めるか。つまり、医療の内容を知っているかがポイントになると思う。</p> <p>□病院側としては、優秀な人は前倒しで欲しくなる。実習の評価がよければ、多分採用すると思う。</p>	<p>□ハードルは高いが、専攻科を卒業する学生の半分ぐらいはアクセスを使えるようにしたい。</p> <p>□ソフトは標準化された段階で入れる可能性もあるが、今の段階は、電子カルテに入っている必要な情報をきちんと取り込めるような教育を考えている。その次の段階で、タイムリーにその場で診断書をつくれるような状況までやってみたい。</p> <p>□新卒の医師事務作業補助者の求人は、今後かなりの確率であり得るのか。我々はニーズに応える人材教育をしていくので、ぜひ求人をしていただければと思う。</p> <p>□病院側から、まず医療事務を経験してもらいたいというコメントをいただくこともある。</p> <p>□ある程度授業が終わった段階で実習に行かせてみれば、どの程度の力があるか見えてくる。</p>

以上